やる気を育てる学級づくり

― イメージを通して ―

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由 …… 57
Ⅱ　学級経営の意義・内容 …… 58
　1　学級経営の意義 …… 58
　2　学級経営の内容 …… 58
Ⅲ　やる気とイメージ …… 58
　1　イメージについて …… 58
　2　やる気とは …… 59
　3　イメージさせることによって、やる気を育てるには …… 60
　　(1)　子どもの興味、関心を大事にする。 …… 60
　　(2)　目標をもたせる。 …… 60
　　(3)　子どものよさを見つける。 …… 60
　　(4)　子どもの努力を認める。 …… 61
　4　やる気をおこさせる言葉 …… 61
　　(1)　やる気をおこす言葉 …… 62
　　(2)　やる気をなくす言葉 …… 62
　5　子どもと共に作る教室環境づくり …… 63
　　(1)　テーマをもって …… 63
　　(2)　整理整頓がきちんと …… 63
　6　親との連携 …… 63
　　(1)　出会いを大切に …… 63
　　(2)　親へのお願い …… 63
　　(3)　学級通信を通して …… 63
　　(4)　学級懇談会の工夫 …… 63
Ⅳ　学級経営の実践 …… 64
　1　イメージを軸とした学級経営 …… 64
　　(1)　「できる」カードを使って …… 64
　　(2)　クラス、個人の目標 …… 65
　　(3)　年間指導計画 …… 67
　2　授業実践展開例 …… 71
　3　実践を通しての成果 …… 72
　　(1)　「できる」カードを通して …… 72
　　(2)　M子のいじめを通して …… 75
Ⅴ　まとめと今後の課題 …… 77
　　<主な参考文献>

宜野湾市立普天間小学校

下　地　洋　子

<学級経営>

やる気を育てる学級づくり
― イメージを通して ―

宜野湾市立普天間小学校教諭　下　地　洋　子

Ⅰ　研究テーマの設定理由

人間は、本来、生まれながらにして自分の世界について好奇心をもち、知りたい、学習したい、成長したいという欲求をもっている。実際、子どもたちは自分の好きな物になると夢中になって時間のたつのも忘れてがんばる。

しかし、入学してくる１年生は幼稚園か保育所に通い、一定の経験をもって入学し、自分の覚えている学習を自慢気に話し「もっと学習しよう」と学習意欲の子がいる反面、手遊び、よそ見、私語をして学習以前の基本的なしつけのできない子もいる。学年が進むにつれて「やる気がない」「しらけている」などと言われているように“活気ややる気”のなさが目だつようになる。この傾向にある子どもの原因は子どもだけに責任があるとは言えない。

やる気のある子は、将来の自分の姿をイメージしている子が多い。自分の将来の目標を実現したいという願望がわきあがり「やる気」が生まれてくると思う。 精神人類学の藤岡喜愛（医学博士）は、『イメージと人間』の本の中で勝部篤美という指導者の例をあげている。それは、大学生の水泳講習会の際に泳げない女子学生達を二つのグループにわけて、一つのグループには、講習会の５日前にテキストを与え「これから５日間、毎日、それを熟読すること。そのテキストどおりに泳いでいる自分をイメージに描き続けること」と指示し、講習会が始まって「君達はイメージ練習をやったのだから、必ず泳げる」と暗示を与えることで１５～１８メートル泳げたと、イメージの効果があったことを述べている。感じる力やイメージづくりの力は、心豊かな人間性を育てるのに特に大切だといわれ、本を読んだ時や人の話を聞いた時なども、わたしたちはイメージをふくらませる。イメージは、目標への方向性を示し、やる気を促してくれると思われる。

今までの自分の反省をしてみると、子どもの興味、関心を配慮せず、あれもだめ、これもだめ、と子どもの意欲を失わせるなど、子ども自身に自信をもたせる工夫が足りなかつた。

そこで、やる気のある子を育てるには、子どもに目標をもたせ、その目標を達成しようとがんばっている姿をイメージさせる事が大切だと思われる。そのためには、教師が子どもの語る言葉を心で受け止め、共に語り合う努力をし、子どもの描くイメージが「絵にかいた餅」にならないように、時々努力の様子について語り合い温かく援助する事が大事である。

また、子どもが肯定的なイメージを描くためには、「できる」カードでのイメージを描かせる練習、教師の温かい学級の雰囲気作り、家庭との連携を密にしていくことなどが「やる気」のある学級づくりへと結びつくのではないかと思い、本テーマを設定した。

II　学級経営の意義・内容

1　学級経営の意義

学級は、児童にとって最も身近で親しみやすい場所である。それゆえ、学級の雰囲気は学習指導や生活指導のすべての基盤となる。学級は、子どもたちにとって「学習の場」であると同時に「生活の場」でもある。学級での子どもの生活は、学級を舞台に展開されるし、友だちづき合いも学級を中心に構成させる。学習を効果的に進めるためには、学級全体に意欲的に学習に取り組む雰囲気や互いに助け合い、励まし合う連帯感がなくてはならない。

学級経営の時間というものはどこにでもあるのではなく、随時随所に行われるもので、学級経営の実現に間接的に働くものになる。つまり、学級経営は授業をスムーズに運ぶ潤滑油の働きをなすものである。

2　学級経営の内容

学級は学校、学年の方針に沿って、具体的な計画や実践を進めていく土台と柱の骨組みに当たるのが学級経営である。学級経営は教育目標を実現するためにあり、学級担任は学級の子どもをどのように育てていくかということを明確に意識したいものである。

学級担任の主なものをあげてみると次のものが考えられる。

① 学級における児童一人ひとりの理解の深化
② 児童の学力の定着
③ 望ましい人間関係の育成
④ 望ましい生活習慣・規律を身につけさせること
⑤ 教室の環境整備
⑥ 家庭との連絡と協力
⑦ 学級事務の能率的な処理

学級担任は、これらの内容を確かにとらえ、具体的な計画の作成をもとに実践していくよう努めることが大切である。

III　やる気とイメージ

1　イメージについて

精神人類学の藤岡喜愛は『イメージと人間』で「人の心はイメージ・タンクであって、つねにイメージをうかべては、そのイメージを働かせて生活している。」と述べている。それでは、イメージをどのように使ったらいいのだろうか。

ダイアナ・ホイットモアは『喜びの教育ーサイコシンセシス教育入門』の中で、「イメージを描くとは、心の中で絵を見ることである。と定義し、視覚化――心にイメージを描くことは自分でも、それと気づかずに誰もがやっていることである。イメージ作りや視覚化が、もし構成されて、意識的に用いられるならば、学習のプロセスを促進することができる。また、イメージ作りや視覚化は、きわめて効果的なテクニックである。」と述べている。お茶の水女子大学の森隆夫

教授は『新学習指導要領と教師の役割』の講演で「イメージ・トレーニングを使って、水泳の指導で効果があったこと、またオリンピックの体操の選手も本番前には、イメージ・トレーニングを応用し、これは、学校のあらゆる教科にも応用できると思う。」と話している。また、身近な例で日刊スポーツ（1990年4月22日）では、イメージ・トレーニングの練習法で優勝した長峰小学校のことが書かれている。

こういう事から考えると、学習においても遊びにおいても、こうすればああなるかなどと想像力豊かなイメージをもたせることによって「やる気」をもたせ、「やり遂げる」だけの見通しを持たせることができると思える。

例えば、自分が良いテストをとってほめられたいと思った時、実際に家族の人にほめられると同じように、いわば幻覚のようにしてその様子を思いうかばせる。

スポーツでも、なんでもプレッシャーにまけないためには自分のベストの時のことを思いだせという。イメージの力によって自分を心理的にいい状態にもっていくのである。

2　やる気とは

小学校の時期というのは、なんでも吸収して「やる気」がでてくる時期であるといわれる。ところが、子どもたちは、学校で勉強を行うその目的に向かって「やる気」になったり、意欲に欠けたりして毎日を送っている。そこで、小学1年生の子ども達に「なぜ、一生懸命勉強するのか」その動機を聞いてみた。

子どもの声をまとめてみると

○頭をよくしたい。　○将来の夢の実現。　○大人になって笑われないため。○漢字を覚えるため。　○大人になった時、自分の子共に教えられないため。　○いい仕事につくため。○立派になるため。　○偉い人になるため。　○勉強しないと人に遅れる。

上記の事柄を突き詰めて聞いていくと、「がんばるとほめられ、ほめられるとうれしくなったり、楽しくなったりする。」と、答えてくれた。それは、子どもたち自身、まわりの人に認められたいという気持ちが「やる気」に結びつくようだ。

医学博士の大木幸介の『脳の働きをよくする本』によると、「やったね。」という成功感、なにかを考えついた時の充実感、あるいは勉強ができたときの満足感などは、どれも脳が、それを気持ちいいと感じていることにあるとされ、学習とか記憶は気持ちがよければどんどんはかどることになる。ところが、人間の悩は楽しくないこと、苦痛、ストレスが苦手であり、そういう状態が続くとやる気や根気がなくなると述べている。

そういうことから考えてみると、目を輝かせ、前向きに取り組む子は知識も身につき勉強もはかどる。その反面、つまらなさそうにしている子は、その時の学習があまり身についていないと思われる。子どもの「やる気」を育てるには、子どもに成功感、充実感、満足感を味わわせることである。

3　イメージさせることによって、やる気を育てるには

目の前にいる子どもたちに「やる気」を起こさせることは大事であるが、現実には「やる気」を育てるのは難しい。しかし、子どもたちも「やる気」のある人になりたいと思っており、多くの子どもは親や教師に対して厳しさや励まし、そして、やさしさなどで接してもらいたいと願っている。

子どもたちの「何かやってみたい」という願いを大事にし、一定期間で達成できる目標をもたせ、その達成した姿をイメージさせ、やりとげたことの充実感や満足感を味わわせることによってやる気のある子を育てたい。

(1)　子どもの興味、関心を大事にする。

やる気のない子は、クラスの中で自分さえよければいいという態度をとる子が多い。しかし、そんな子でも何かに興味、関心をもっている。それが、机に座っての学習だけではなく、サッカーや野球であったり、小さな虫などを集めることであったりする。

子どもは自分の興味や関心のあるものに対しては、他の者から言われなくても自ら進んで行動を起こしている。それは、興味、関心につながることで過去に嬉しい、楽しいという経験があったに違いない。その子どもの興味、関心を大事にしてあげたい。

(2)　目標をもたせる。

子どものがんばりぬいた時の表情は輝いている。それはやり終えた時の満足感や充実感などを味わっているからだと考えられる。その充実感や満足感を味わわせるために子どもに目標をもたせ、その目標にむかってがんばる子どもを育てたい。その目標を達成することによって充実感や満足感を数多く経験さるためには、子どもの興味、関心のあるものから目標をもたせていきたい。

(3)　子どものよさをみつける。

目標に向かってがんばりたいという意欲を育てるには、まわりの雰囲気も大事である。常に自分の目標を意識させるためにも、努力している子の例を取り上げてみんなに話してあげることにより、自分もがんばろうという気持ちが高まってくる。

例えば、学級目標で「相手の話をしっかり聞く」ことを決めたとする。聞くことは教科の学習を進めていく過程では大事なことだが、この「聞く」ということを目標にして子どもたちと取り組む時には間接指導を通してやってみたい。

騒がしい子どもたちを目の前にして、「ゲームによる集中のさせ方」や「集中させる技術」も必要であるが、それだけに頼ると管理的な指導になってしまい、子どもの「やる気」は育たない。しかし、子どもだけの自主性、自発性だけに頼れば、放任になってしまう。

そこで、子どもたちが自分の判断で静かに聞いたり、発表するようになるには、教師は子ども達の多くの行動や発言内容、考え方などの中から良かった部分をとりあげ、学級の子どもたちに気づかせる工夫が必要である。

「○○さんは、先生の顔を見てとっても聞くのが上手だ。」というと、ほめられた子は嬉しくて、それからも、じっと教師の顔をみて授業を受けようと努力する。この言葉を聞いた他の

子どもたちも、自分もほめられたいという気持ちからほめられた子をまねして、話を聞く子がふえてくる。

このように、子ども自ら「自分もやってみよう」と考え行動させるためには、その場その場での肯定的な行為を受容し、認めてやり、ほめてやることが大切である。そうすることにより、この行為はいいことなんだなと子どもが気づき間接的な指導をしたことになる。

(4) 子どもの努力を認める。

子どもの努力を認め「よくやったね！」「えらい！」など言葉でほめてあげる。そうすることによって、この次もがんばろうという気持ちになって、それが自信へとつながり教科や生活態度の向上にむすびつくと思う。常に「どの子が、がんばっているのか。」なげかけ、努力している子をみんなで認めてあげるような工夫が必要である。

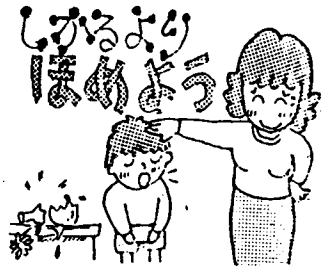
4　やる気をおこさせる言葉

私たちは言葉によって、喜んだり、楽しくなったり、悲しんだり、怒ったりなど様々な感情にとらわれる。子どもは生まれてからしつけという意味で、両親や教師から「あれをやってはいけない」「これをやってはいけない」といわれ続けて成長している。

基本的生活習慣の確立のためにはしかたのないことだが、なぜいけないのか理解させながら言葉をかけていかないと、わたしはできないと自信をなくすような子を育てていくのではないか。

言葉の大事さということでは、次のようなサーカスの象のたとえの話を聞いたことがある。サーカスでは、大人の象が小さな鎖でつながれ、子どもの象が大きな鎖でつながれているそうだ。もし、大人の象が本気になって鎖を外そうとしたら鎖を外すことは可能である。しかし、大人の象はもう抜けないものだとあきらめている。なぜなら、子どもの時に何度も挑戦してできなかったからである。私たち人間も象と同じようにできるのにできないと思い込んでいる場合が多いのではないか。

子どもたちにとって、自信をもたせ「やる気になる言葉」とはどんなものであろうか。次に「やる気をおこす言葉」「やる気をなくす言葉」をアンケートにしてまとめたみた。



(1)　やる気をおこす言葉（アンケートより）　（単位　人）

	学校の先生	家の人
1年生	・おりこう。……（8） ・がんばつてね。……（3） ・がんばつてよ。……（3） ・よかったですね。……（3） ・よくできたね。……（2） ・合格したよ。……（1） ・てつだいをしてちょうだい。……（1） ・がんばっているね。……（1） ・いいことをしたときありがとう。（1） ・ちゃんとすわつておりこうね。（1） ・２年生になってもがんばってね。（1） ・そうじがじょうずだね。……（1） ・とても、字がきれいだね。……（1）	・がんばっているね。……（7） ・おりこう。……（3） ・じょうずだね。……（2） ・よくできたね。……（2） ・とても、上手に書けているね。……（1） ・自分でやってよ。……（1） ・勉強いっぱいがんばってね。……（1） ・えらいわね。……（1） ・勉強がんばったね。……（1） ・字がじょうずだね。……（1） ・いい点数とれたね。……（1） ・よくやったね。……（1） ・勉強じょうずだね。……（1） ・すごいね。……（1） ・宿題ちゃんとしているね。……（1）
6年生	・がんばれよ。……（4） ・ほめられる言葉。……（3） ・あんた えらいね。……（2） ・あなたならできる。がんばってね。（1） ・がんばれ。……（1） ・どんどんのびてきたな。……（1） ・クラス全員がほめたとき。……（1）	・がんばっているね。……（7） ・こずかいあげるからやって。……（1） ・やればできる子だぞ、おまえは。（1） ・頑張って。……（1） ・おまえだったらできる。……（1） ・ほめられ言葉。……（1） ・がんばったね。……（1） ・大丈夫 がんばってよ。……（1） ・がんばって　この問題解いてごらん（1） ・がんばってね。……（1）

(2)　やる気をなくす言葉（アンケートより）　（単位　人）

	学校の先生	家の人
1年生	・つねつねするよ。……（3） ・まちがっている。……（2） ・やりなさい。……（2） ・間違っているからやりなおし。（2） ・きれいにかきなさい。……（1） ・いっぱい勉強しなさい。……（1） ・もう終わり。……（1） ・まだまだだね。……（1） ・これくらいもできないの。……（1） ・へたくそ。……（1） ・やりなおし……（1） ・体育着を忘れちゃ、だめ。……（1）	・まちがっている。……（4） ・バカだね。……（3） ・お母さんがっかりしたよ。……（1） ・ちゃんとしなさい。……（1） ・だめでしょう。外に出すよ。……（1） ・ヤレ。……（1） ・百点取りなさい。……（1） ・宿題しないとだめだよ。……（1） ・勉強しなさい。……（1） ・だめでしょうが。……（1） ・これぐらいのものもできなの。……（1） ・勉強した。……（1） ・アホッ。ちゃんとしなさい。……（1） ・イライラする言葉……（1）
6年生	・テストの点数悪かつたな。……（1） ・あんたへたくそだね。……（1） ・注意された言葉。……（1） ・なんでできないの。……（1） ・おまえはこのぐらいもできないの（1） ・ヤレッ。……（1） ・おまえは勉強してもむだだ。（1）	・早く勉強しなさい。……（1） ・あなたは、ちゃんと勉強しているの（1） ・おまえは、もう勉強しなくていい。（1） ・おまえは、本当にダメな子ね。……（1） ・おまえは、それぐらいの頭しかないの。……（1） ・おまえは、他のおうちにいけー。（1） ・前にやったでしょう。なんかい教えてもしらないのね。……（1） ・あんたのやりかたよー。……（1） ・バカじゃないの。……（1）

子どもたちの声からすると、ほめた言葉や自信をもたせるような言葉をかけた時は「やる気」をだし、命令するような言葉や否定的な言葉をかけた時は「やる気」をなくしているといえる。

5　子どもと共に創る教室環境づくり

授業参観や学級懇談会などで親（保護者）が観察するのは、学校生活の子どもの様子と教室の環境であろう。教室に掲示してある作品から、親は子どもの成長の足跡を確かめ、普段の子どもの様子を想像している事と思われる。

教室の環境は教師と子どもによって作られ、その環境から受けるのは強いと考えるならば教室の環境もおろそかにはできない。「今日も楽しかった。」と子どもの憩いの場所になるような心がけが必要がある。

(1)　テーマをもって

学級の目標(月の目標)にてらして教室の環境の工夫をし、子どものイメージを豊かにしたい。

(2)　清潔で整理整頓をきちんと

教室のあちこちに作品が乱雑に散らかり、机、イス、清掃用具が整理されず荒れていては、子ども達のイメージを豊かにすることは難しい。教室の備品の扱い方、使い方の日常指導をすることにより物を大事にする心を育てたい。

6　親との連携

子どもの指導効果を高めていくには家庭との信頼関係がとっても大事なことである。教師と家庭がそれぞれの果たすべき役割を認識し、それぞれの立場から期待や悩みを出しあって共に考えたいものである。

(1)　出会いを大切に

入学式や授業参観、家庭訪問、学級懇談会などと親との出会いは数多くあり、子どもを一緒に育てていくという気持ちをもって、笑顔で接したいものである。

(2)　親へのお願い

新学期になると、子どもも親も担任の先生に対する期待は大きい。それだけに次の事をお願いして指導効果をあげたい。

①　教師を信頼させるために、子どもの前では教師の悪口や批判をしないでほしい。
②　子どもの朝起きを習慣化させてほしい。

やる気のない大部分の子は、登校ぎりぎりまで寝て教室に駆け込んでくる子が多い。そのような子の頭が冴えてくるのは昼ごろになってしまい、学校での授業は身に入らないと考えられる。せめて登校前の１時間半前までには起きる習慣を身につけさせてほしいと思う。

(3)　学級通信を通して

学級通信は学校と家庭を結ぶパイプである。学級通信を通して相互理解や信頼に結びつくようにしたい。そのために子どもの良くなった点や良くなりつつある点を書くように努めたい。子どもは自分の名前が書かれていると家庭の人に自慢し、そこで親子の会話が弾むものと思う。学級通信には一部分の子どもだけをのせるのではなく、クラス全員の子どもの名前が載るような配慮も必要である。

(4)　学級懇談会の工夫

ゲームや歌などを入れて話がしやすいような雰囲気作りをする。また、時には父兄に司会をさせることによって、教師からの一方通行の話だけてはなく、お互いどうしの話が弾む。

Ⅳ　学級経営の実践

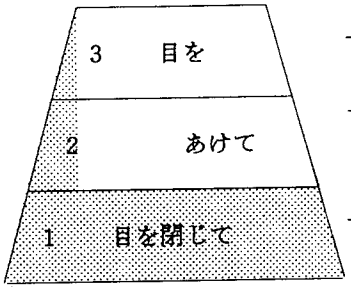
1　イメージを軸とした学級経営

これまで、毎年新学期になると、目標に向かって努力する子を育てることは、学級経営上欠くことのできないものと考え、子ども一人ひとりに目標をもたせ、それに取り組んできた。しかし、月日が経つにつれ、目標は教室の一部に掲げられているだけになってしまっている場合が多かった。なぜ、自分自身でたてた目標なのに「絵に書いた餅」になってしまったのだろうか。

今までの反省をしてみると、ただ目標を書かせっぱなしで、目標に迫るてだてを意識して教えていない取り組みの弱さの反省の余地がある。

目標に向かって行動することはその子なりに実行し、反省し、生活の自己管理力をつけるものだと考える。子ども自身で目標を決め、その目標に向かって努力する子に育てることを学級経営に位置づけ、それに取り組む方法として随時随所に自分の目標をイメージさせることを軸としての学級経営にしたい。

○ イメージでの導き方　　どのような手だてをするか。



⟶ 学級の目標（各自の目標）に向かって取り組む。

⟶ クラス全員で同じ目標に向かって取り組む。
各自の興味・関心のある目標に向かって取り組む。

⟶ 「できる」カードを使ってイメージを描かせる。

※2、3の目標に対しては、目を閉じて3の割合に対して、目を開けて7の割合ですすめる。

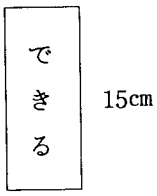
(1)　「できる」カードを使って

① イメージの描かせる練習のため、カードを使って練習する。
カードは30cmほど離して、「き」の黒点を20秒間集中してみる。
その後、目をとじると緑の上に赤っぽい色で‘できる’という字が瞼に浮かびあがってくる。

② ‘できる’という字が消えていくまで眺めるようにする。はじめははっきりでない人もいるが、慣れればはっきりとでるようになる。
注意（一日、3回以上は使わないでください。）

③ 2カ月ぐらいは、一日に2回（朝の会、3校時の授業が始まる前）に利用し、イメージの練習をする。

できるカード



カード（赤）
文字（緑）

(2)　クラス目標、個人目標の取り組み

一週間で達成し、生活態度の変容に迫るもの

◎　一つ達成したら、次の目標へと少しづつレベルをあげていき、意欲を高めていくようにする。

◎　評価の面から一週間サイクルが望ましいが、高学年では一ヶ月の目標をもたせてもよい。

実　践　例

めあてを書く

①　全員でクラスの目標、各自の目標を表にかかせる。

例　くさ花で、いろいろなものをつくる。

○　絵は自分が目標を達成している姿を描かせる。

○　達成した時の気持ちを想像して書く。

実　　践

②　帰りの会にイメージする。

③　帰りの会に反省、評価する。

・　目標に向かって努力している子をほめてあげる。

④　一週間後、反省を書く。

わたしのめあて

なまえ（　　）

・めあて

○　めあてができたときを　かんがえてかく。

・え

ようび	できた　○ できない　×
木	
金	
土	
月	
火	
水	

・がんばったらどんなきもちになるのかな。

○　はんせい

評　　価

○　目標が達成した喜びを感じたり、つまづいたことを反省したりして、次週への努力のめやすとする。

○　目標が達成した喜びは大きいものである。子どもの生の喜びの声を発表させたり、教師がみんなに紹介したりして、雰囲気をもりあげていくようにする。

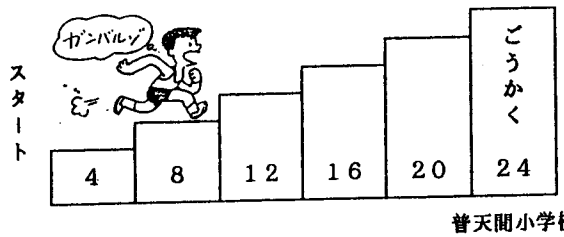
○　目標に向かって取り組むために「よいこの免許証」を作る。

- 4週ごとに合格の印をつけてあげる。
- 24週終わったら、写真をはって、よい子の免許証として与える。

よいこのめんきょしょう

なまえ	
せいねんがっぴ	しょうわ　年　月　日うまれ
じゅうしょ	ぎのわんしあざ　ばんち
ごうかくした日	へいせい　年　月　日

めんきょのやくそ
○ じぶんのめあてをもってがんばること
○ ききじょうずになること



めんきょしょうばんごう
だい　ごう

しゃしん

普天間小学校　1年　組　担任　下地洋子　印

(3) 年間指導計画　　学 級 経 営 案　(1年)

目標

(1) 学校、学年の目標をうけ「自分のめあてに、むかってがんばる子」を学級教育目標とする。

(2) 各教科の指導にあたっては、ほめて自信をもたせ、のばしていくような配慮をする。

(3) 一人ひとりの児童が、学級で楽しさ、喜びを味わわせる生活が送れるように努める。

月	月の目標	生徒指導 (学習のしつけ)	特別活動 学行・学級行事	特別活動 学級活動
4	楽しく学習できる教室作りを目指す ☆「できる」カードを作る。	○挨拶の仕方 ○聞き方、返事の仕方 ○並び方	○入学式 ○身体測定 ○登校班長指導 ○交通指導(1)	○帰り道 (2−6) ○今日から一年生(2−1) ○楽しい遠足(2−8) ○先生のお手伝いをしよう(1)
5	児童理解の基礎資料を整理し、学級経営へ活用していく。 ☆カードを使ってイメージづくりをする。	○持ち物に名前の記入 ○プリントの提出 ○机の中やロッカーの整理	○内科検診 ○遠足	△廊下のきまり ○楽しい給食(2−7) ◇手の洗い方 ○気持ちよい挨拶(2−3) ○誕生列車を作ろう(1) ○避難訓練(2−6) ○日直の仕事(1) ○丈夫な体(2−6) ○お誕生会をしよう(1) ☆イメージづくりカードを使って
6	みんなが健康で事故のない学級を目指す。 ☆クラスのめあてに取り組む。	○鉛筆の持ち方 ○ノートの使い方 ○体育着の整理の仕方 ○よい姿勢(背筋を伸ばす) ○授業中と休み時間の時間のけじめ	○校内写生大会 ○避難訓練 ○運動会	△避難のきまり ◇給食の時間(時間内に) ○丈夫な歯(2−6) ○水泳と安全(2−6) ○運動会(2−8) ○係を決めよう(1) ☆めあて作り(クラス)
7	一学期のまとめと評価の工夫をする 夏休みの過ごし方の計画立案	○作品の整理の仕方 ○机の中やロッカーの整理	○終業式 ○夏休み	△危険な場所へは近寄らない ◇給食の後かたずけ(きちんと) ○お誕生会をしよう(1) ○もうすぐ夏休み(2−8) ☆クラスのめあて
9	新たな意欲にあふれた学級を目指す	○話の仕方(声の大きさ) ○時間のけじめ	○始業式 ○発育測定 ○校内童話会	△勉強道具の安全 ◇給食の食後の指導(しずかに) ○さあ 二学期だ(2−4) ○本を読もう(2−5) ○給食当番やそうじ当番(1) ○お誕生会をしよう(1) ☆二学期のめあて

学級活動(☆ テーマと関連　◇給食指導　△安全指導)

図書館利用指導(◎学級活動　○教科との融合)

月	読書指導 図書館利用指導	生活目標	教室環境・安全指導	家庭との連携	学級事務
4	絵本をすきになろう …… ◎図書館へいこう	◎元気よく挨拶をしましょう ○時間を守りましょう	心に安心感・安定感を持たせるための教室の飾りの配慮 ・学級目標、時間割表、誕生日表五十音表 ・机、ロッカー靴箱 傘たての名札付けと確認	○学年・学級通信 ○家庭訪問の実施計画の立案 ○家庭調査表作成 ☆カード作り	○諸帳簿の引継とその整理 ○家庭調査の実施 ○家庭訪問の計画と実施
5	かんたんな絵本を読もう …… ◎本を読むとき	◎物を大切にしましょう ○元気よくあいさつをしましょう	児童とつくる教室環境作り ・係活動表　学級会の約束　誕生日表	○学年・学級通信 ○授業参観の呼びかけ ○遠足の参加	○健康診断カードの整理
6	戦争に関する絵本を読もう …… ◎本をかりにいこう	◎時間を守りましょう ○正しい姿勢で学習しましょう	運動会の雰囲気をもりあげる環境づくり ・運動会の作文や絵	○運動会の参加 ○水泳の心得 ○学年・学級通信	○子どもの作品の整理整頓
7	名作を読もう …… ◎本をかわいがろう	◎学校をきれいにしましょう ○物を大切にしましょう	・一学期のあしあとを視覚的に展示 あさがおの絵	○学期末父母会 ・一学期の反省 ・夏休みの過ごし方 ○学年・学級通信	○諸帳簿の整理 ○よいこのあゆみ作成 ○夏休みのしおりの作成
9	読書感想文感想画をかこう …… ○読書記録のとり方	◎元気よくあいさつをしましょう ○時間をまもりましょう	・二学期にむけて夏休みの作品展 ・掃除・給食当番	○授業参観の呼びかけ ○学年・学期通信	○夏休みの作品の評価 ○掃除・給食当番表 ○めあての表

月	月の目標	生徒指導（学習のしつけ）	特別活動 学行・学級行事	特別活動 学級活動
10	協力しあって決まりよい生活や本に親しむ学級を目指す	○忘れ物をしない ○話型	○社会見学	△体にあった自転車とのる場所 ◇給食の栄養（すききらいなく） ○目の愛護デー(2－6) ○議題を見つけよう(1) ☆自分の目標
11	相手の話きちんと聞き、自分の考えたことをはっきり話す ☆自分のめあてに向かって取り組む。	○話型	○図書館研究発表会	△きまりあるバスの乗り降り ◇給食を作ってくれる人に感謝 ○係を交代しよう(1) ○体をきれいに(2－6) ○お誕生日会(1) ☆自分の目標
12	二学期のまとめと評価の工夫をする	○持ち物の自己管理 ・机の中やロッカー ○ノートの整理	○終業式	△こたつの当り方 ◇楽しい食事の場を作る ○お楽しみ会(1) ☆目当ての反省
1	新年度の希望を持たせるような工夫をする。	○ノートの使い方 ○掃除用具や運動用具の整理整頓	○始業式 ○発育測定	△外での遊び ◇スムーズに食事の準備 ○お楽しみ会(1)（お正月の遊び） ○お誕生会(1) ☆自分の目標
2	みんなの前で堂々と発表する態度を養う。	○時間のけじめ	○学習発表会	△対面交通 ◇栄養についての話合い ○もうすぐ学芸会(2－8) ○鬼退治の会(1) ○議題を見つけよう(1) ☆自分の目標
3	一年間のまとめをする。二年生への進級の希望をもたせる。	○作品の整理整頓	○終了式	△わたしの怪我 ○お世話になった6年生へ(2－3) ○お誕生会(1) ☆めあての反省 ○一年間の反省

月	読書指導 図書館利用指導	生活目標	教室環境・安全指導	家庭との連携	学級事務
10	読書発表会をしよう	◎正しい姿勢で学習しましょう ○物を大切にしましょう	○本に親しむ教室 ・読書記録カード ・感想画展示	○読書のすすめ ○童話会の取り組み ○学年・学級通信	○読書ノートの作成 ○読書がんばり表
11	民話やファンタジック的な物語を読もう	◎先生や友達の話をしっかり聞きましょう ○元気よく外で遊びましょう	○読書のあしあとを工夫する。 ・感想画・文展示	○図書館発表会の呼びかけ ○学年・学級通信	○発表に向けての準備
12	伝記を読もう	◎学校をきれいにしましょう ○元気よく外で遊びましょう	二学期の締めくくりをしよう。	○学期末父母会 ・二学期の反省 ・冬休みの過ごし方 ○学年通信	○二学期の事務整理 ○冬休みの過ごさせ方の計画
1	くらしの本を読もう …… ○たのしい紙芝居	◎元気よくあいさつをしましょう ○物を大切にしましょう	新年を迎える環境づくり ・書初め展の展示 ・年賀状 ・冬休みの作品展	○授業参観の呼びかけ ○学年・学級通信	○書初め展の準備 ○学芸会の出し物の準備
2	科学的なえほんを読もう	◎時間を守りましょう ○元気よく外で遊びましょう	使いやすい教材教具の整理工夫 ・版画の絵	○学芸会 ○ＰＴＡ学年行事の参加 ○学年・学級通信	○学芸会の準備と後かたずけ ○指導要録作成の資料の整理
3	読書のまとめをしよう	◎学校をきれいにしましょう ○物を大切にしましょう	新一年生の引き継ぐ環境の整備	○学年末父母会の工夫 ○春休みの過ごし方の計画立案 ○学年・学級通信	○よいこのあゆみの記入 ○指導要録の記入 ○学級編成 ○教材、教具の点検、整理返却 ○卒業式、終了式の準備

2　授業展開例

(1)　題材名　「できる」カードの使い方

(2)　題材設定の理由

子どもたちは、学年の始めに「先生のお話を聞いてがんばろう」と決意する子が多い。しかし、月日が経つにつれ、生活、遊び、学習などの決まりを守れず注意され、それが教科の時間に影響を与えているのが現状である。

そこで、毎日の学校生活の中で、目標をもたせ、その目標をイメージさせることにより、よりよい態度に近づけることができるのではないかと考えた。イメージを描かせる練習で‘できる’という文字を描かせることにより、自分の目標をイメージする事ができるのではないかと考え、本題材を設定した。

(3)　本時の指導

○　本時の目標

「できる」カードを使って自分を高めようとする意欲をもたせる。

○　授業仮設

自分の目標を達成するには、常に頭の中にイメージする事に気づかせ、「できる」カードを使おうとする意欲をもたせることが出来るであろう。

(4)　展開例

	指　導　内　容	活　動　内　容	留意点・資料
導入	①　入学してから今日までの学校生活を発表させる。	○ 学校生活の様子を話し合う。 ・友だちとけんかした。 ・遊ぶ時間が短い。 ・おしゃべりして注意された。 ・忘れものをした。	○　学校のきまりが守れなかったために、みんなに迷惑かけた時や困ったことに気づかせる。
展開	②　どんな一年生になりたいか考えさせる。 ③　どうすれば自分の考えた一年生になれるか話し合わせる。 ④　できる「カード」の利用のしかたを説明する。 ⑤　カードを利用した後の子どもの感想を言わせる。	○　どんな一年生になりたいか話し合う。 ・みんなと仲良くする。 ・勉強をがんばる。 ・自分の事は自分でやる。 ○　自分の考えた一年生になるにはどうしたらいいか話し合う。 ・先生のお話を聞く。 ・宿題はきちんとする。 ・その他 ○　カードの利用の仕方を聞き、実際にやってみる。 ア　きの黒点を20秒見る。 イ　20秒経ったら目を閉じる。目がいたくなったら20秒でなくても目を閉じる。 ○　感想を話し合う。 ・　できるの字が見えてきた。 ・　ほんとうにできるみたい	○　話合いをもとに、どんな一年生なりたか話し合わせ、目標をつかみやすくさせる。 ・学習の面で ・遊びや生活の面で ○　常に意識させるために「できる」カードを使うことを理解させる。 できる
まとめ	⑥　「できる」カードを朝の会と三校時のはじめに使う事を知らせる	○　「できる」カードをいつ、どように使うのかがわかる。	○　「できる」カードの置き場をしらせ、大事に使うことを約束させる。

(5) 評価

・ 「できる」カードを使って、自分を高めようとする意欲がでたか。

3 実践を通しての成果

(1) 「できる」カードを使って

① 算数プリント（1年）

○ 時間

	カードを使う前	カードを使った後
早い子	5分	3分
遅い子	20分	10分

○ 子どもの感想

・絶対百点とるぞ。
・できるような気持ちになってきた。
・できると思った。
・やるぞという気持ちになってきた。
・早く問題をやりたい。
・なんだか嬉しい気持ちになってきた。
・問題が簡単になったみたい。
・なんだかやる気がでてきた。
・がんばろうという気持ちになった。
・こんな問題、すぐ出来そう。

② カードを使ったあとの子どもの声

ア 低学年 （一週間後）

1 年 生	2 年 生
・最近けんかをしなくなった。 ・他の先生にほめられた。 ・いい気分になってきた。 ・クラスが静かになってきた。	・頭がすっきりしてきた。 ・やる気がでてきた。 ・なんだかできるような気がした。

イ 1年生（2週間後） 作文より

単位 人

学 習 の 面	生 活 の 面	そ の 他
・先生の話をみんなが聞くようになり、勉強がしやすくなった。（2） ・勉強が少しできた。（2） ・百点をとった。（2） ・本をたくさん読めるようになった。（1） ・算数が好きになった。（1） ・字が上手になった。（1） ・うんていができた。（1） ・鉄棒のこうもり下がりができた。（1）	・姿勢がよくなった。（2） ・掃除が上手になった。（2） ・けんかが前に比べて、すぐやめるようになった。（2） ・けんかをしなくなった。（2） ・友達のけんかが、あまり見られない。（1） ・けんかが強くなった。（1） ・うるさい嫌な音が、教室からスゥーと消えた。（1） ・ほめられるのが多くなった。（1） ・静かに先生の話が聞けるし、家でほめられるようになった。（1）	・ピアノのお稽古が1時間から2時間になった。（1） ・がんばっている。（1） ・おりこうになった。（1） ・よいこになった。（1） ・クラスのみんながんばってきた。（1） ・えらくなろうとがんばっている。（1） ・おみまいにいった。（1） ・まだ、わからない。（1） ・何も変わっていない。（1）

ウ　6年生（10日後）　作文より　　単位　人

学習の面	生活の面	その他
・集中力がでてきた。（7） ・体育が上手になった。（2） ・テストの点数があがった（2） ・テストの時に漢字や計算の仕方を思い出す。（1） ・今までより良くなった。（1）	・友だちと仲良くなれるように想像しながら、努力するようになった。（3） ・友だちと仲良くなれた。（2） ・1分の時間を捉えることが出来た。（1）	・やる気がでてきた。（3） ・成績が上がっている部分を想像するようになった。（3） ・成績が上がるようで、心がすがすがしくなる。（1） ・集中力と想像力を身につけたいと思うようになる。（1） ・「できる」という文字が出来るので不思議だ。（1） ・出来るようにお願いしている。（1） ・やる気がでて、実現させようという気持ちになる。（1） ・わからない。（2）

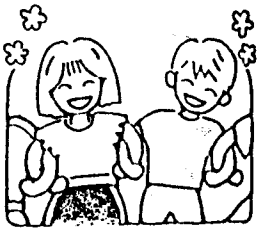
エ　子どもの作文

○　1年生

L子

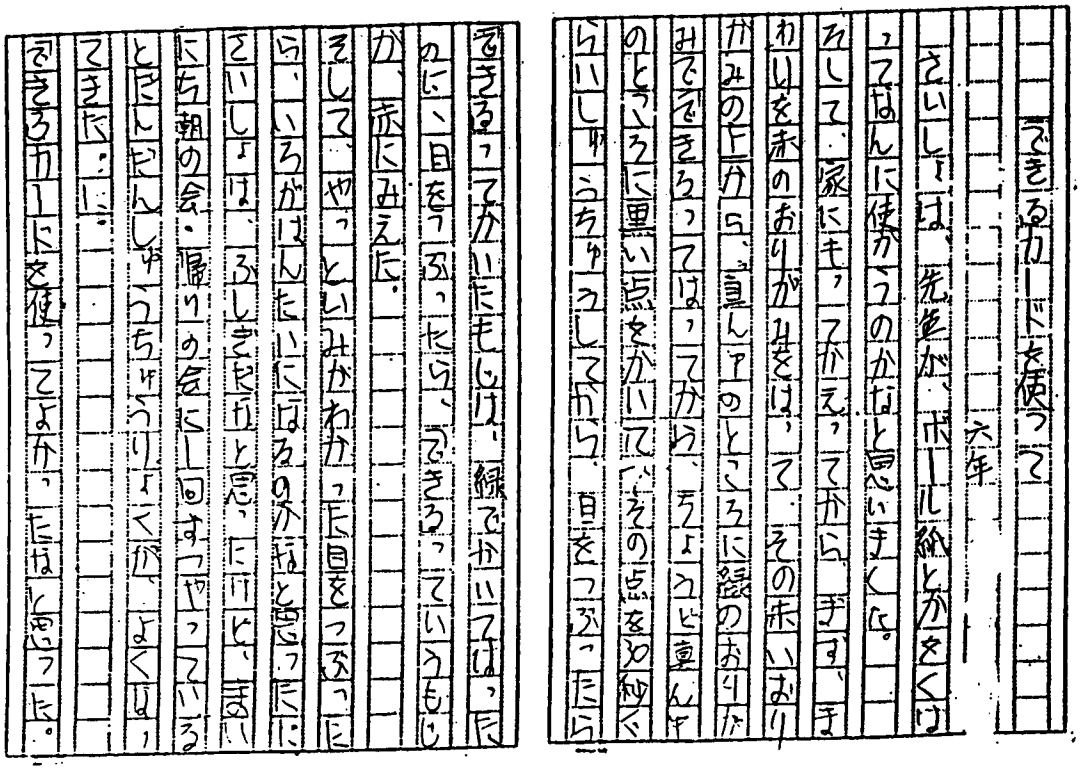
わたしは、できるの、カード
を、もらって、とってもうれ
しいことが、たくさんあります
。それは、先生に、ほめられた
り、みんな、なかよくしていろ
ところや、先生の目を見て、し
っかりと先生のおはなしをきい
ていますと。そのときは、とても
心が、あかるくなって、心の中
に、バラの花が、さいたように
みえます。そのときは、みんな
も先生も、とても、よろこんで
る、かおに、みえます。わたし
もとても、うれしくなります。

K



ぼくは、できるかあどをつか
ていいこになりました。
どうゆうにというとともだち と
けんかがあってもすぐなかなお
りさするようになりました。
べんきょうもたのしくなりました。
ぼくは、できるかあどをみた。
ていると、いきもちにもなりま
した。それで、ぼくは、できる
かあどがふしぎだなとおもいま
した。だけど、せんせいからわ
けをきいたら、ふしぎまほおか
あるときこたのでぼくは、でき
るかあどをつかってともだちと
なかよくしてえらいこになりた

○　6年生



できるカードを使って

六年

さいしょは、先生が、ボール紙とかをくばってなんに使かうのかなと思いました。

そして、家にもってかえってから、まず、まわりを赤のおりがみをはって、その赤いおりがみの上から、黒ンピのところに緑のおりがみでできろってはってから、ちょうど黒ンピのところに黒い点をかいて、その点を30秒くらいしゅうちゅうしてから、目をつぶったらできろってかいたもじが、赤にみえた。

そして、やっといみがわかった目をつぶったら、いろがげんたいになるのかなと思ったにさいしょは、ふしぎだなと思ったにたいして、まいにち朝の会・帰りの会にしゅうすうやっていることにんにんしゅうちゅうりょくが、よくなってきた。

できろカードを使ってよかったなと思った。

③　教師からみた児童の変容と感想

○　児童の変容

・物を投げていた子が、前に比べて投げなくなった。先生の話を聞くのが少し上手になった。

・テストやプリントをやって後、以前はすぐ遊びにいっていたが、カードを使うようになってからはすぐ確認するようになった。

・まだまだ静かに授業うけることはできないが学習に対する興味がでてきた。

・国語、算数の平均点があがった。

○　感想

・うっかり忘れてしまって続けるのは厳しいが、全体の雰囲気づくりのに使うのはいい。しかし、それだけに期待するのはいけないし、また頼りすぎてはいけない。

・子どもたちが信じてやっているためか集中力がある。教師自身やっていて楽しい。

・子どもの表情が明るくなってきた。

(2) M子のいじめを通して

① 状況の分析

幼稚園からいじめられています。今も男の子がからかいます。みんなと仲良くなりたいのですが、どうしたらいいのでしょうか。

家庭学習でM子の悩みがあるのを知った。M子はクラスの男子からからかわれ、いいかえしたりしたが、顔を膨らませることが多かった。母親に電話で状況を聞くと、学校での様子はM子から聞いていて、どうしたらいいかわからないと母親も助けを求める様子だった。

② よりよいイメージづくりのてだて

M子がクラスの雰囲気で仲良くするてだてを考えてみた。

（ア） M子が仲良くするにはどうしたらいいのか一部の子どもたちと相談して学級会でとりあげる。

○ 学級会での様子

毎日、何気なく使っている言葉だが、相手を傷つけることがある。その本人にしてみればずっと心に残っており、なかにはそれが恨みの気持ちに変わっていく場合もありうるという話をする。そんな話をした後で「みんなにそういう経験がないのかしら。」子どもたちはニヤニヤしていながらM子の顔を見ている。M子はなにかいいたそうである。M子に今までの心のうちを話してもらった。今まで悪口を言われて辛かったことをポツリポツリと話した。クラスのみんなは静かに聞いている。

（イ） M子の肯定的なイメージを雰囲気で作る。

今のイメージ　　仲良くなるためのイメージ

→

○ みんなのが描いている M子のイメージとは
- いじめておもしろい。（男子）
- いじめられてかわいそう。（女子）

○ M子自身のイメージ
- 学校にいっていじめられる。

○ M子が仲間に入りやすいイメージ
- みんなの中にはいって遊んでいる。

○ M子自身のイメージ
- みんなと仲よく遊べる。

肯定的なイメージを描かせるために

○ 遊び大会を開いて、子どもが喜びそうなゲームを取入れ、男女仲良くするきっかけを作る。（知恵の輪、清正ジャンケンなど）

○ 日常生活の中でM子のよさを見つけて話すことにより、M子の肯定的なイメージを描かせる。

○ M子のいじめられる不安を取り除いて、みんなと楽しく遊んでいるイメージを描かせる。

（ウ） 取り組み後

○ M子へのイメージ

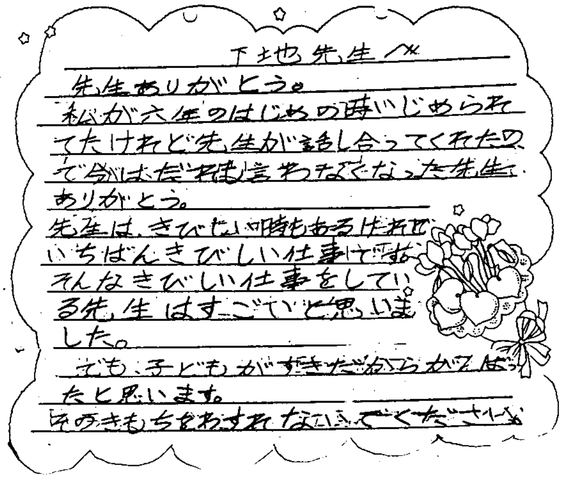
・掃除がじょうずである。

・字が丁寧である。

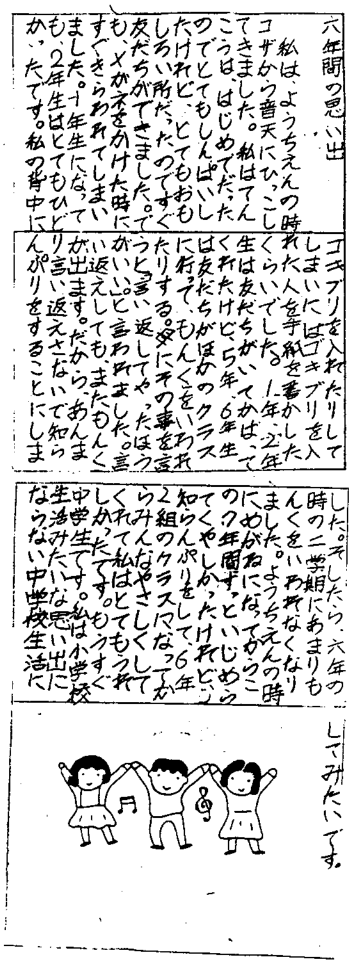
・よく気がつく。

〜〜〜M子さん〜〜〜
M子さんもう少しで卒業だね
M子さんはいつもいつも教室をきれいにしたり、また、そうじ時間はいっしょうけんめいにきれいにします
M子さん、M子さんはとてもきれいな心をもっています
そういうM子さんが私はすてきだと思います
比嘉優紀

M子の作文


下地先生へ
先生ありがとう。
私が六年のはじめの時いじめられてたけれど先生が話し合ってくれたので今はだれも言わなくなった先生ありがとう。
先生は、きびしい時もあるけれどいちばんきびしい仕事ですね
そんなきびしい仕事をしている先生はすごいと思いました。
でも、子どもがすきだからがんばったと思います。
そのきもちをわすれないでください。

○ M子の卒業前の作文


六年間の思い出
私は、ようちえんの時コザから普天にひっこしてきました。私はてんこうは、はじめてだったのでとてもしんぱいしたけれど、とてもおもしろい所だったのですぐ友だちができました。でも、めがねをかけた時にすぐきらわれてしまいました。1年生になっても、2年生はとてもひどかったです。私の背中にゴキブリを入れたりしてしまいにはゴキブリを入れた人を手紙を書かしたくらいでした。1年、2年生は友だちがいてかばってくれたけど、5年、6年生は友だちがほかのクラスに行って、もんくをいわれたりする。友にその事を言うと言い返してやったほうがいいと言われました。言い返えしても、またもんくが出ます。だから、あんまり言い返えさないで知らんぷりをすることにしました。そしたら、六年の時の二学期にあまりもんくをいわれなくなりました。ようちえんの時にめがねになってからこの7年間ずっといじめられてくやしかったけれど、知らんぷりをして、6年2組のクラスになってからみんなやさしくしてくれて私はとてもうれしかったです。もうすぐ中学生です。私は小学校生活みたいな思い出にならない中学校生活にしてみたいです。

V　まとめと今後の課題

効果的な教育活動は「やる気」を育てるといわれるが、一人ひとりの「やる気」を育てるのは、千差万別である。人は「どんな時にやる気がおきるのか。」と問いかけた時、目標があり、それを実現したいとの欲求が「やる気」につながるのではないかと考え、目標をイメージさせることで、このテーマに取り組んできた。

「やる気」のテーマを取り組んでいく中で、何から取りかかり、どうすすめてよいのか不安な状態からの出発であった。研修期間中、数多くの文献に触れることが出来た。また、家庭での効果の成果の大きい事例報告から大きい収穫があったこともよかった。

イメージの具体的な取り組みでは、「できる」カードを使うことによって、子ども達から「けんかしなくなった。」「勉強ができるようになった。」等の声を聞くことができたのは大きな発見であった。子ども達自身をできるような気持ちにさせたのは「できる」という肯定的な言葉の効果であったのではないかと思う。

この「やる気」に関するテーマの研究は、これまでに、いくつものすばらしい研究がなされていて、私は「やる気」を育てる一つの方法としてイメージの一部をかじったにすぎない。

このテーマは私自身のテーマでもあり、この期間で得たものを基礎に今後も続けていきたい。

このような充実した研修の機会を与えてくださった宜野湾市立教育委員会をはじめ、適切なご助言をくださいました糸嶺次長、宮城義昇所長、伊波指導主事、教育センターの玉城指導主事、大山小学校の池原教頭、普天間小学校の先生方、そして時々議論を交わした仲間のみなさん、ありがとうございました。

＜参考文献＞

ドン・デインクマイヤー ルドルフ・ドレイカース	子どものやる気	創元社	１９８９年
前島健男	学級経営の立案	文教書院	１９８９年
藤岡喜愛	イメージと人間	日本放送出版協会	１９８０年
秋川政則	やる気を育てる小学校の学級経営	明治図書	１９８８年
大木幸介	脳の働きをよくする本	大口製本印刷	１９９０年
千葉康則 近藤薫樹	子どもの成長と脳のはたらき	有斐閣	１９８６年
宮本美沙子	やる気の心理学	創元社	１９９０年
ダイアナ・ホイットモア	喜びの教育	春秋社	１９９０年